

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 毎月最終例会 18:00
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 和田正敏
 幹事 田部井良和
 会報 雑誌委員長 宮尾 紘司

No.9

ロータリー2000：活動は一堅実、信望、持続

ROTARY 2000：ACT WITH CONSISTENCY, CREDIBILITY, CONTINUITY

1999～2000年度 RI会長 カルロ・ラビッツァ

きょうの例会

第820回 平成11年9月21日(火)

卓話

“私の想像する高齢社会” 会員 伊原 正躬君
 “The Smile” 会員 池森 由幸君

先週の記録

第819回 平成11年9月14日(火) 雨

◆“それでこそロータリー”

◆出席報告

会員 70(67)名 出席 49名
 出席率 73.13%
 前々回 8月31日(修正出席率) 97.01%

◆ビジター紹介 2名

◆ニコボックスは紙面の都合上、次回掲載と致します。

田部井幹事報告

1. 次回例会終了後、理事役員会を開催致しますので理事役員の方はお残り下さい。
2. '98～'99年度ガバナーより、R.I.ガバナー賞が贈られましたこと、ご報告致します。

鷺谷副会長挨拶

剣劇女優の浅香光代さんが口火を切って早や5ヶ月以上になろうかというサッチー報道は、ロータリアンの皆さんにしても、「多少は関心があるよ」とか、「いや、そんなものは関心ないよ」とか、色々おありだと思いますが、小生としては多少なりとも示唆を与えられればと思ってお話をさせて頂くことにしました。

マスコミ界には「放送人の会」と云うのがあり、川口前NHK会長の主催で、「サッチー報道とは、何なのかーテレビを考える」と云うテーマのシンポジウムが東京で開催されました。当日のシンポジウムは一般視聴者など約200人が参加して、ワイドショー司会を務めていた水口義朗の司会で、コラムニスト天野祐吉氏、脚本家の市川森一氏、ノンフィクション作家の久田恵氏などがパネリストとして参加し、それに、コメンテ

ターの加藤タキさんが発言を求められたりして、ミッチー派とサッチー派が、それぞれ主張を戦わせた一幕もあったそうです。パネリスト間の討論では、「浅香さん、野村さん達の年代がテレビの主人公になることは、めったにないわけです。従って、今回は彼女らと、同世代の人たちがこの騒動をヒートアップさせ、それが長期にわたる報道を支えている要因の一つになっている」と市川氏が発言しているし、又「芸能界のタブーを破り、有名人同士が言い争うと云う新しいスキャンダルが生まれた気がする」と言った久田氏の分析などを見てみると、「なるほどな」と思えてなりません。

一方、テレビ局側が番組でアンケートしたら、「過剰報道と思う」と出てきており、「もうやめて」も含めて63%になっております。又、反面「報道すれば見る」と答えた人が66%もあったりして、戸惑っているとフジTVの太田氏などが発言しているのです。

当日の会場からは「集団でいじめている印象を与えて不快であり、もうやめなさい」とか、テレビ局に「過去を詮索する権利があるのか」「プライバシーや人権が侵害されている気がします」とか「モラルハザードが進む日本の中でウソをつくことは、いけないと云うことを徹底的に追求してほしい」とか「ワイドショーで今回のようなうさん臭い問題を取りあげて社会性を巻き起こすことは必要だ」との意見などサッチー報道をめぐって賛否両論の意見が出されたようです。

さて、皆さんは、どの様に感じ、どうぞ評価されますか。

◆卓話

“満19才の徴兵検査と

シベリアのサウナ風呂体験記”

会員 小坂井 盛雄君



大東亜戦争、風雲急を告げ兵員の不足を補うべく正規の徴兵検査が一年繰上げになりました。検査により甲種合格が一番良い体格の者で、その次が第一乙種、次が第二乙種である。丙種と云うのはどこか身体に欠陥のある者でほとんどの者が甲種又は第一乙種であった。これは戦闘員として合格と云う事で、検査最終の裸の身体に大きな十五糶丸の合格のゴム印をポンと押されたものであった。当時、自分はロクな物を喰って居なかったせいか第一乙種で、その頃の風潮として甲種は目出度く、第一や第二乙種になる事は、大変恥な事で片身の狭い思いをしたものである。

兵隊検査は一人前になったと云う証して、それが済まない内は子供で酒・タバコもタブー、勿論女遊びも社会的に許されないものでありました。その検査風景はまことに軍隊調そのもの、「オイ、コラー」「貴様等」「何をモタモタしている」「気を付け」「よし」「早くせい！」等々大声が飛び交う中、吾々受験者は肅々と身長・体重・胸囲の測定から始まる検査を神妙に受けるのである。その内軍医の前にパンツ一つで直立不動、大きな声で出身地氏名を申告しパンツを下げ、淋病・梅毒の性病に掛って居ないかどうかを調べるのである。兵隊検査前に女遊びをした証拠を見つけられたら最後、「馬鹿野郎！」と一発ゲンコツが飛び横にいる下士官等に二・三発ビンタのお見舞を受け直立不動で並ばされるのである。幸い私は女遊びを知らず無事通過したが、この女を知らない事は苛酷な捕虜生活を過す上で大いに幸いしたものであった。女を知り、うまい物の味を知り家族を持った者と、女は勿論、ロクな物も食べさせてもらっていない上、家庭の暖かさも知らない者とは、ソ連での試練に耐えるときに、その耐亡度苦痛度がまったく異っていた事を後日私は知る事となり、神の配慮に感謝したものであった。とにかく第一乙種合格の通知を受けた私はいよいよ兵隊に取られるであろうと覚悟を決め、天皇陛下の居られる宮城を拝みたい、又「日光見ずして結構と云うな」と云われた日光が見たい、そして日本に思い残す事の無い自分になって戦地に赴き、大君の御為に胸をフクラまして立派に死ぬのうと思ひ、貯金箱を壊し有金を持って生れて初めての東京・日光への旅に出た。

正にお上りさん、生まれて初めての上京。まずは宮城に行き最敬礼をし、日光へ向かった。さすが立派な建築だ。日光見物を終え宿を探したがどこも一人旅のせいか泊めて貰えない。しかたなく今市迄戻ってやっと宿泊する事が出来た。今迄は満20才で兵隊検査、その翌年満21才で入隊するのが通例であったが、風雲急を告げ戦死者多数で人員補給の為小生の時から1年繰上げの満19才での兵隊検査、その年の入隊で普通より2年も早く現役入隊となってしまい、随分と損した様な気になったり、2年も早くお国の為には働けるのだと云う思いやら複雑な心境ではあったが、私服のままで門司集合、民家に宿泊して出発を待つ事になった。少し落ちついた頃おかみさんが奉賀帳の様なものを持っ

て来て、氏名出身地を書けと云う。めくって見ると所々朱線で消してある。これは何ですか、と尋ねると戦死した方だと云う。一瞬皆が静粛になった。私は署名しながら、何れ自分の名前も朱線で消されるだろうなと思ったものである。

翌朝召集され朝鮮半島経由で北満ハイラルへ行き、515野砲連隊に入隊したのである。

ロシア式サウナに入る

永い間風呂に入る事など夢の又夢であった。吾々捕虜がある時そのアカを落とす恩恵に浴す日が来た。正に浴したのである。それ迄は短いシベリアの夏に川で水浴する位でお湯につかる事等は無かった。それがトリムスカヤの駅でのラポーターに変わって町のラーゲルに移ってからの事だ。ラーゲル外にあるロシア式のサウナに吾々は連れて行かれ、久々にお風呂に入る事が出来た。しかしそれはロシア式サウナ風呂であり、大きな水槽の横に木製のヒナ段が作ってあり、七・八名ずつその段に腰を掛ける様になって居る。その下に大きな石がゴロゴロと積んであって、その下から火を焚く様にしている。石は熱く焼けて居るのでこのサウナを使うには先ず水槽の下にある蛇口をひねって手槽に水をそそぎその手槽の水をこの石に掛ける事から始まるのだ。水は焼石に当たって真白な蒸気をモウモウとあげこれが部屋中に充満するのである。吾々はその温度に合せヒナ段を上ったり下りたりして、自分に合った快適な場所に腰を降ろすのである。

時折石に水を掛け蒸気を発生させ乍ら身体を熱くするのは現代のサウナとまったく同じ原理である。熱くなった体に水を掛け石鹸で身体中をこすると一枚皮がむけた様に皆が一ぺんに綺麗になってしまい、大声で歓声を上げ乍らハシャギ廻ったのであった。

サッパリした。気持ち良かった。このサウナを週一回吾々は楽しむ事が出来る様になり、少し人間らしい扱いになった様な気がして嬉しく、大変待ち遠しくなったのである。

しかし、その内シャワーとかサウナだけではどうしてもシックリいかずドブプリとお湯につかってみたいと思うのだが、中々これは実現しそうにない。

ある時、誰かが水槽によじ登り中に飛び込んだ。水槽は非常に大きく日本の酒蔵の大きな樽の様な物で外側と内側にハシゴが付いて居るので、登るのはさほど難儀では無い。サウナにつかって十分にホテッタ身体で水槽の中を泳ぎ廻るのだ。「オーイ気持ち良いぞ、皆も入れよー」と大きな声。「大丈夫か？オイ、見付かったら大目玉だぞ」「どれどれおれも入ろう」とカンカンガクガク大さわぎ。つらく永い捕虜中の数少ない楽しい一刻であった。

◆次回例会（9月28日）

ガバナー公式訪問（名東RC合同）

国際ホテルにて 12:30～